佳作（高学年の部）

弟へ、いつもぼくのそばにいててくれてありがとう。

滋賀県　湖南市立三雲小学校　四年

衣田（きぬた）　匠佑（しょうすけ）

ぼくには、弟がいる。ようち園の年長組で、五才だ。ぼくとは四才はなれていて、せいかくは全くちがうが、顔はそっくりだ。弟の好きな遊びは、へん身ごっこと電車遊び。レールを自分でつなげて、部屋いっぱいをせんりょうしていつも遊んでいる。他には、みんなにはあまり言いたくないけれども、赤ちゃんの時から使っているタオルが好きだ。そして、あまえんぼうだ。

ぼくは、三才のクリスマスの時に「お兄ちゃんになりたい。プレゼントは、弟がいい。」とおねがいした。ぼくが四才になった秋に、弟が生まれた。その日はぼくも立ち会い、お兄ちゃんになれてうれしかった。やっとお兄ちゃんになれると思った。弟をかわいがろうと思った。

けれども、今までぼくは一人っ子。お母さんを一人じめしていたのに、それができなくなった。お母さんと生まれたばかりの弟が病院からたい院してからは、毎日がいそがしくなり、うれしい気持ちもあったが少しさみしくなり、悲しくなった。お母さんが取られたみたいで…。弟が大きくなると、いつも「兄ちゃん、これ何？」「兄ちゃん、手つだって。」「兄ちゃん、遊ぼうよ。」ぼくの宿題中や遊んでいる時に、しょっ中横から話しかけてきて、正直うっとうしい。ぼくだって、やりたいことがある。ぼくだって、ぼくの時間を自由に使いたい。今でも、そう思っている。でも、いやな事だけじゃない。いい事だってある。例えば、ぼくが元気のない時には、ぼくの横に来て、テレビに出ているおわらいのまねをして、ぼくがわらうまでずっとやりつづけてくれる。お母さんの体調が悪い時には、一番大切なタオルケットをお母さんの体にかけてあげている。お父さんが仕事からつかれて帰って来た時には、とびっきりのえがおで「おかえり」とだきつく。

そんな弟が、来年の春小学一年生になる。弟はちょっと小がらだから、ランドセルをせおえるだろうか、学校まで三十分も歩けるだろうか、友達にいじめられないかな、好ききらいがたくさんあるのに給食全部食べられるかな、勉強できるかな、とぼくは兄として、心配になる。だけどきっとぼくの弟だ。できない事は、あるかもしれないけれどもきっとがんばってできると思う。また「お兄ちゃん、手つだって」「お兄ちゃん、教えて」とぼくの事をたよってくるだろう。またぼくは弟を、うっとうしいと思うかもしれないけれども、ぼくはお兄ちゃんになれたんだ。しかたがないなぁ～。お兄ちゃんとして、小学校の先ぱいとして、こまった時には助けてやりたい。

ぼくは、弟が好きだ。ぼくの家族もみんな弟が大好きだ。弟が生まれて来てくれて、お兄ちゃんになれたんだ。お兄ちゃんって大へんだけど、たよられるって悪くない。ずっとぼくは、大人になっても弟のお兄ちゃんだ。

これからも、いっぱい遊んでいっぱいたよれよ!!　生まれて来てくれて、ありがとう。